

刈谷田川利活用検討委員会通信 vol.1

～市民、新潟県、長岡市、見附市が協働して、刈谷田川埋戻部(旧河川)の利用構想を検討しています～

編集・発行／新潟県長岡地域振興局(地域整備部計画調整課) 発行日／平成21年2月26日

災害復旧工事で発生する敷地について

平成16年7月13日に発生した刈谷田川の水害により被災した、長岡市中之島地区及び見附市今町地区において河川災害復旧助成事業(旧川埋戻し)により約3haの敷地が発生します。この土地利用について、河川防災ステーション等の適切な整備のため、これまで両市が個別に構想案を検討してきました。



刈谷田川利活用検討委員会とは？

長岡市と見附市の構想案をもとに、刈谷田川埋戻部(旧河川)の将来的な利活用のあり方を協議するために発足した委員会です。中之島地区(長岡市)と今町地区(見附市)からそれぞれ選出された市民委員(計16名)を中心に、新潟県長岡地域振興局、長岡市、見附市の行政関係者がワークショップを通して、整備計画や管理運営計画を検討していきます。ワークショップは平成20年度から平成21年度にかけて実施する予定です。

【刈谷田川利活用検討委員会に至るまでの経緯】

平成16年度	水害発生(7.13) 刈谷田川河川災害復旧助成事業着工
平成17年度	新潟県長岡災害復旧部による「刈谷田川市民参加ワークショップ」を4回開催 中之島地区・今町地区の住民100名が参加し、刈谷田川旧川埋戻部のあり方について検討しました
平成19年度～	上記ワークショップの成果をもとに、長岡市と見附市がそれぞれ利活用の基本構想案を策定
平成20年度～	「刈谷田川利活用検討委員会」を設立 長岡市と見附市の構想案をもとに、整備計画、将来的な利活用・管理運営計画の検討をはじめました

第1回刈谷田川利活用検討委員会の概要

平成21年1月28日(水) 19:00～ 長岡市中之島公民館

～地域を越えた1つの利用構想を目指して～

第1回の検討委員会の前に、それぞれの市にわかれて事前の説明会を開催しました。中之島地区と今町地区の市民委員は今日が初顔合わせとなりましたが、まず様々な意見を共有しながら、大きな方向性を見つけ出すことから始めました。

■プログラム

- ①開会のあいさつ
- ②事務局からの説明(ワークショップの進め方について)
- ③参加者自己紹介(思いや提案をくわえて一言ずつ発表)
- ④長岡、見附の両市による基本構想案についての説明
- ⑤グループワーク(2班に分かれてフリーディスカッション)
- ⑥グループごとの発表とまとめ



市民委員16名(長岡市8名・見附市8名)
新潟県長岡地域振興局4名、長岡市3名、見附市3名
NPO 法人地域交流センター(事務局)2名
新潟日報(取材)2名
※取材の様子は平成21年1月30日の記事で紹介しています

検討委員会(ワークショップ)の結果レポート

長岡市と見附市の構想図の共通点とは…

長岡市と見附市の利活用構想は、もともと新潟県長岡災害復旧部による「刈谷田川市民参加ワークショップ」の成果に由来しているものです。構想図としての見え方は違いますが、要素や機能として整理してみると多くの共通点があります。これを実感するために両市の構想図を見ながら次のように整理してみました。

主な機能や要素	長岡市の構想図	見附市の構想図
ヘリポート	中之島大橋より約 100m 下流の県道脇	中之島大橋橋詰付近
避難場所となる広場	約 5,000 m ² (交流広場)	約 7,500 m ² (多目的広場)
避難場所となる建物	2カ所 (凧会館、交流施設)	1ヶ所 (凧会館)
駐車場	3ヶ所 (101 台)	3ヶ所 (127 台)
森、植栽	市民の森、桜並木	木の実・落葉の森、子どもの森、桜並木
水害祈念モニュメント	メモリアルパークの中に設置	せせらぎとあわせて設置

3hの敷地をどんな場所にしたいですか？

自己紹介をかねて、市民委員の皆さんから「この敷地をこんな場所として利用すべき」という意見を出してもらいました。

誰もがみんな使える場所にしたい！

中之島・今町のひとたちが互いに使いやすいものを／子どもを遊ばせられるような場所にしたい／みんなが使えるような防災拠点を／みんなで利用できるようなものを／老若男女の絆ができるといい

中之島と今町の絆を深める場所にしたい！

中之島・今町の共通のいい財産ができた／せっかくのチャンス。中之島・今町の絆を深めたい／中之島・今町の絆をこれを機会に深めたい／子どもを通じた中之島・今町の交流を／中之島・今町の元気を発信したい

凧合戦は共通の話題に！

凧合戦の関係者としては言いたいこと、やりたいことがたくさんある／凧合戦を中心に中之島・今町がつながり、外へも発信できるものを

その他の意見

運営管理についても検討を／金額にとらわれず夢を描きたい／残地 (埋戻部) から花火を上げてみたい／地域の「安全」「元気」「楽しめる」を実現できるように／今町商店街の発展も頭の片隅に置いてもらいたい／中之島・今町と一緒に検討するのは時期尚早なのでは？／次の世代が「いいものをつくってくれたな」と思ってくれるものを／みなさんで知恵を出し合って良いものをつくりたい

グループワーク (2班にわかれて) の結果

中之島と今町の住民が入り交ざりながら2班にわかれて、利用構想の共通テーマや大きな方向性について検討しました。市民委員の皆さんから出た意見やアイデアを内容ごとにまとめると次のとおりになります。

グループ1のまとめ

＜旧河川部の土地利用の考え方＞

今町と中之島の共有の財産として考えるべき／今町と中之島とで一緒に考えることが大切／夢の実現をする機会であり、まちづくりにつながることである

＜子どもの遊び場として＞

子どもが安全に遊べる場所にしたい／子どもが夢中になって遊べる場所にしたい／昔の子どもは土手でスキーを楽しんだ



＜施設整備についての課題＞

しっかりした施設をつくる場合は管理負担を事前に考えておく必要がある／複合施設、多機能施設をつくりたい／多目的施設は中途半端になる危険性があるので用途は明確にした方がいい

＜凧に関して＞

凧揚げをする場合は建物がない方がいい／「大凧=人生そのもの」という熱狂的な方がいる／一般市民は凧合戦を見に来るだけ／凧は両地域の共通した財産なので活用すべき／凧の通年活用を考える

＜旧河川部の整備に求めたい機能＞

芝生だけの何も無い広場／商売の視点で他所から人を集める／災害で出来た土地なので防災拠点にすべき(救援物資等の中継拠点として活用)／地域住民が活用する場所と来訪者にお金を落としてもらう場所の両面の機能が必要／3つの機能を柱に①安全(防災)の拠点、②地域の元気(物販)、③環境のよい憩いの場

＜川とのかかわり＞

この場所と川とのかかわりをつくりたい(水辺の活用)／昔は子どもが川で遊んだが今は上流に堰ができて水が少なくなった／日頃から川を見ることがなくなっている／見附市案の水路(小生物が棲める小川)・・・常時水を流す場合はポンプアップする必要があるので整備や運営に費用が掛かる

＜整備に関する意見・アイデア＞

元のまちの様子が見えるようにして欲しい／立ち退きをした家があることを忘れてはいけない／桜を植えて花見ができるように／地域の方の手作り小物などの商品を並べられる場所に／燕市の交通公園(交通安全施設のほか、乗り物、自然に親しみ身体を鍛えるトリム施設などがある)のような場所に／遊歩道を作って住民が散歩できるように／防災訓練を両市の合同で行う／トイレと駐車場があれば、観光バスが立ち寄ることができる／寺泊からの帰りのバスに立ち寄ってもらいたい／地域の活性化イベントなどができる場所に

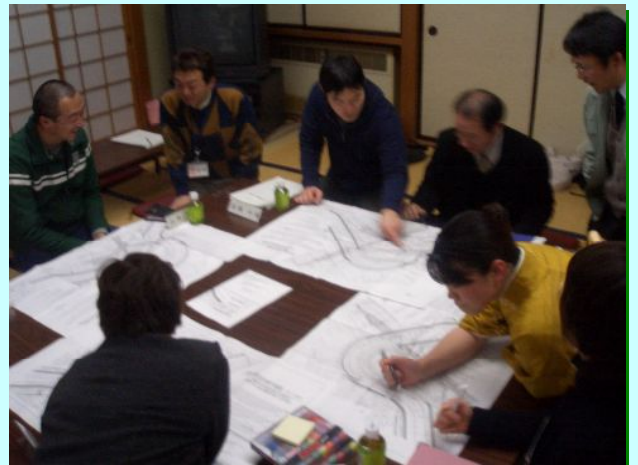
グループ2のまとめ

＜防災の拠点として＞

日本海側の中心防災拠点となるような機能に／中之島と今町で住民が主体となった合同防災訓練や水防訓練を／ヘリポートは平常時に駐車場として利用

＜子どもたちのために＞

子どもイベントを実施する(かまくら、迷路など)／子どもたちがスキーをできるような山を／子どもの遊具、子どもが伸び伸びと遊べる広場を／子どもの自転車の練習場所として



＜広い広場のある公園(与板たちばな公園のような)＞

広い公園が欲しい(何も無いからこそ使い勝手がよい)／「たちばな公園」のような広い公園(子どもが遊ぶと大人も来るので活性化につながる)(複数意見)／理想は何も無い芝生の広場／施設がなくても除草などの管理経費・労力はかかる／建物を一箇所(橋の南側の敷地)に集め広々としたスペースを確保／橋の南側の敷地への車のアクセスを確保する／橋の南側⇄北側のアクセス(道路を横断)を確保する必要がある

＜最小限の建物と凧を活かした物産・観光＞

細々としたものはあまりつくらない(建物は一つ程度で十分)／寺泊まで行く観光客の中継地点となりうる(ICに近い・新潟のへそ)／管理運営を考えると建物は少ないほうがいい／凧合戦の3日間以外でも凧に触れられるような観光施設(特産品の販売・道の駅的なもの)／建物は1つで十分(凧、物産)／観光の目玉となる凧会館(今町の凧会館は傾いている)／メモリアル的なものは新しい橋があるので不要

＜中之島・今町の合同イベントを＞

中之島と今町の住民合同のイベントが必要／イベント開催時にみんなで草刈をすれば一石二鳥／両市合同で産業まつりを開催／花火も上げたい／イベントでヘリポートを活用したい(成人式で自分たちの育った町を空から見るなど)／気球イベントのような大きなイベントを

＜木を植えて森をつくる＞

樹林が欲しい(植樹基金として住民から基金を募れば自分たちがつくれた森という意識が生まれる)／桜を植えて花見の名所に／みんなで木を植えたい

第1回検討委員会のまとめ

グループワークでの結果の発表

グループ1の発表

発表者：飯塚さん

- ・中之島と今町とが遠慮しないで、共通の地域資源として共に考え、活用していくことが大事。
- ・基本は防災拠点だが、観光拠点としての機能も盛り込む必要がある。
- ・凧を観光資源として活用することで地域が元気になるようにする。
- ・ぜひ、子どもの遊び場の確保をしたい。



グループ2の発表

発表者：稲庭さん

- ・北側の広い敷地は広々とした広場に、子どもの遊び場や手作りの森を配置したい。
- ・建物は道路で分断された南側の敷地にあつめる。しかし、車や人のアクセスの確保が必要となる。
- ・建物は1つだけ整備して、凧・物産を軸とした観光施設に防災拠点としての機能を加えた複合施設とする。
- ・広場では、中之島と今町の絆を深められるような合同イベントを開催してはどうだろうか。



大きな方向性（共通のテーマやキーワード）

地域で育てる森

植樹基金を募って住民が育てる森をつくる／花見の名所にしたい

中之島・今町の合同イベントを

住民合同のイベントを／両市合同の産業まつり
ヘリポートの活用(成人式で自分のまちを見る)
花火大会や気球のイベント

子ども達のために

子どもが伸び伸びと夢中になって遊べる場所や遊具をつくりたい

土地利用のコンセプト

中之島と今町の共通の財産(宝)／夢の実現・まちづくりへの発展
建物は最小限に・1箇所に集める(管理運営を視野に)／
観光(日常利用)と防災の2つの機能

広い何もない広場

芝生だけの広い広場が理想／何もないからこそ使い勝手がよい

防災を中心にした拠点づくり

災害を忘れてはならない!／広域的な防災拠点に
救援物資の中継拠点として活用／中之島と今町の
合同防災訓練を実施

凧合戦を活かす

日常的な凧とのふれあい・観光のための施設(凧会館)が必要

総括と今後の予定

中之島と今町の住民の皆さんが目指す利活用のあり方は、概ね同じような方向を目指していることが分かります。防災拠点を中心に据えつつも、日常的に住民の皆さんが集い、交流する場として使いたいという声が多く、また地域の元気を取り戻すためには中之島と今町の絆となる「凧」をテーマにした観光に取り組める施設が必要という意見も多くありました。

第2回の刈谷田川利活用検討委員会は 3/11(水)に予定していますが、交流を大事にしなが、さらに活発な議論を重ねていきたいと思ひます。地域の皆さんに喜んでもらえる利活用構想をつくりたいと思ひますので今後とも宜しくお願ひします。

本件のつひてのお問合せ先



新潟県長岡地域振興局(地域整備部計画調整課)

〒940-8567 新潟県長岡市四郎丸町 173 番地 2 TEL:0258-38-2614 FAX:0258-38-2627